

第78号 「境界」

令和2年6月30日

1989年11月9日、ドイツ分断の象徴であり東西冷戦の象徴であったベルリンの壁が崩壊しました。このことが、ドイツ統一の動きを加速させました。一方、朝鮮半島には38度線と呼ばれる軍事境界線が存在します。同じ民族が今でもこの境界線によって南北に分断されています。

境界に起因する争いは、身近なことから国あるいは世界的規模に至るまで多く存在します。これは歴史が証明していることであり、今でも繰り返されています。そんな境界なら、ない方が良いでしょう。しかし、人類が昔から境界を設けてきたのには何らかの理由があるはずで、そもそも境界を設けたのは人間です。その境界に人間が苦しめられている。不思議な現実です。

すべての動物には自分の領域を守る本能があります。もちろん人間も同じです。自分の領域内にいると安心し、周りからの侵入があると危険を感じます。また、自分の領域外に出る際には幾らかの勇気が必要です。自分を守るために境界を設けるのは本能であり、人の心として当然のことなのです。それでも人類は、その本能を上回る知能を有し、経験から学び、感情をコントロールする術を身に付けてきたはずで、しかし、人は争いをやめない。悲しい現実です。

コロナ感染防止のため、県をまたいだ移動が制限されました。県境を越えるという行為がここまで注目されたことは今までなかったと思います。県境には壁やフェンスが設置されているわけではなく、自家用車や公共交通機関で移動している場合はほとんど意識しません。しかしこの度のコロナ禍で、県境には目に見えない壁が存在しているということに私は気付かされました。そして、移動の自粛から開放された今でも、その壁を乗り越えることに躊躇してしまう自分がいます。自分自身の心が見えない壁を作っているのです。また、県外者に対する嫌がらせや差別行為も報道されています。自分を守るためという名目で他者を攻撃する。許しがたい現実です。

心の境界線は目には見えません。その存在は自分自身の心でしかわかりませんし、他者の境界線は想像して察するしかありません。良好な人間関係を構築するためには、自分の境界線を自分でコントロールすること、そして他者の境界線を踏み越えないことが重要です。

どんなに親しい者同士にも必ず境界線が存在します。わかっているつもりでも、私は妻の境界線を土足で踏み込んでしまうことがあります。逆に、私の境界線を踏み越えて来て欲しいと思うこともあります。まだまだ人生勉強が足りていないということです。情けない現実です。